

令和7年度(2025年度)放課後等デイサービス事業所における自己評価

作成: 令和8年2月26日

事業所名 「すごろくクラブ」・「ドリーム&ホープ」

令和8年(2026年)2月実施 (回答: 調査職員13名中13名)

		チェック項目	はい	どちらとも えない	いいえ	改善目標・工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	5	1	・利用定員分のスペースは足りていない ・利用者個別に整理整頓・身支度でき、備品は収納して清潔感のある環境にしたい ・外遊びを中心としているので、室内で過ごす時間は長くない
	2	職員の配置数は適切である	8	4	1	・新しい職員が入ったため配置数が適切になった ・一対一で活動できる日もあり、子供に合わせ職員を決め行動できている ・人員基準は満たしており加配加算も算定できる状態ではあるが、安定数とは思わない(児童指導員の数等)
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	8	1	・入り口に段差(階段)がある ・玄関の階段スロープは置いてある ・配慮出来ている所もあるができていない部分もある ・借家のため手を加えられるわけではない
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	4	2	・ミーティング等に改善点を話し合うことはあるが、PDCAサイクルまでは意識していない
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	6	1	・アンケートは見たことがない ・保護者評価表による評価は受けているが、評価表を活用したアンケート調査は実施していない。国が求めている日常業務の遂行が優先であり、労働基準法や働き方改革に従えばアンケートを実施する時間はない
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10	2	1	・公開しているかわからない ・ホームページで公開している
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	7	5	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	13	0	0	・事業所内研修や外部研修への参加を行っている ・主に事業所内で研修を行っている。可能ならば「あいち児童発達支援連絡会」の研修にも参加している
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	11	2	0	・対象児童によく関わっている職員が案の作成に関わっている
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	3	3	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	12	1	0	・デイ活動の行き先(外出先)を決めている ・毎日のミーティングで行っている
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	5	0	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9	4	0	・長期休暇に遠出をしている ・長期休暇には遠出をしたり、平日には行けない所に足を伸ばしている ・子供に合わせて考えている ・興味が広がるような活動を取入れている ・平日と長期休暇は活動時間が異なるので行き先等活動内容が異なる
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	13	0	0	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	3	0	・毎日のミーティングの実施 ・基本的には日々行っているが、遠方の学校迎えがあるので時間は長く取れない
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	5	1	・後日のミーティングの時に話し合いを実施している ・翌日に行っている ・支援終了日の打ち合わせは不可能なので翌日の打合せ時に行っている
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	4	0	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	11	2	0	・半年に一度行っている ・計画の見直しは6ヶ月に一回行っている
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	7	6	0	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11	2	0	・担当者会議が開催される場合は、対象児童によく関わっている職員を派遣する

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	12	1	0	・下校時間等の確認は保護者を通じて行うことが多いが、必要に応じて学校と連絡を取ることはある
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	10	1	・医療的ケアが必要な児童を受入れたことはない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	8	2	・過去に行ったことはある ・以前保育園に見学に行ったことがある ・過去には利用予定児童の様子を保育所に見学に行ったことはあるが、時間的余裕もないので積極的には行っていない
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	9	1	・過去に提供したことはある ・情報提供の要請があれば対応する
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	5	2	・支援センターの研修を受けたことはあるが連携と言えるほどではない 【記入なし1件】
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	9	2	・行事(クリスマス会)で高校生の方と関わる機会がある。公園でも一般の子と遊ぶこともある ・公園に行きそこに居合わせ合子供と遊ぶことはある ・公園で会った時に遊んでいる ・公園や商業施設等屋外活動が主なので障害がない子供もいる場で活動している
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	8	2	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	12	1	0	・連絡帳で保護者に連絡している ・連絡帳、自宅送り時、計画の面談時等にお子さんの様子をうかがったり伝えたりしている
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	9	3	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	4	0	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	11	2	0	・自宅送りの時、電話、連絡帳で行っている ・保護者から相談があった場合に対応している
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	5	0	・保護者会はあるが加入者の減少や保護者の就労の増加で集まる機会が持たなくなっている
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	10	3	0	・苦情に対しては速やかに対応している。苦情は収束し、拡散している実感はないので、適切に対応できていると考えている
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	12	1	0	・「すぐ・ドリニュース」で保護者に発信している ・毎月「すぐ・ドリニュース」を発行している ・「すぐ・ドリニュース」を月一回発行している
	35	個人情報に十分注意している	10	3	0	・シュレツダーを活用
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	12	1	0	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	7	4	・以前地域住民をクリスマス会に招待していた
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	11	2	0	・「すぐ・ドリニュース」に掲載した ・防災に関する計画やBCPは作成してある ・防犯に関するマニュアルは作成していない
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	13	0	0	・一年に一回行っている ・洪水に対する避難訓練は年一回行っている ・防災に関する事業所内の研修を行っている
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	13	0	0	・研修を行っている ・研修や虐待防止委員会の開催を行っている ・虐待に関して事業所内で研修を行っている
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	11	2	0	・手順に従って放課後等デイサービス計画に身体拘束に関する事項を記載している事例がある
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	3	2	・アセスメントシートに記入された事項を見ている ・アレルギー表は保護者からいただいている ・今までに医師の指示書が必要な程のアレルギー症状がある児童の利用はない
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	5	1	・ヒヤリハット事例を作成していたことはあるが継続できていない ・事故報告書は作成している